

国立民族学博物館研究報告 vol.13-1; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	13
号	1
発行年	1988-07-30
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009217

1988 — 13 卷 1 号

国立民族学博物館 研究報告



国家的過程のなかの民族文化

——インドネシア、トラジャにおける伝統的文化の現代的位相—— 山下晋司

オーストラリア・アボリジニ社会再編成の人口論的考察—— 小山修三

クーラとタンボール

——北部ブラジルの憑霊カルトにおける成巫過程—— 古谷嘉章

航海術と海の生物

——ミクロネシアの航海術における *Pwukof* の知識—— 秋道智彌



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

13 卷 1 号

1988 年

目 次

国家的過程のなかの民族文化

——インドネシア, トラジャにおける伝統的文化の現代的位相——山下晋司..... 1

オーストラリア・アボリジニ社会再編成の人口論的考察.....小山修三.....37

クーラとタンボール

——北部ブラジルの憑霊カルトにおける成巫過程——古谷嘉章.....69

航海術と海の生物

——マイクロネシアの航海術における Pwukof の知識——秋道智彌..... 127

彙 報..... 175

国立民族学博物館研究報告寄稿要項..... 180

国立民族学博物館研究報告執筆要領..... 181

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 13 No. 1

1988

- YAMASHITA, Shinji Ethnic Culture in the Process of Nation-Building:
The Toraja Cultural Tradition in Contemporary
Indonesia 1
- KOYAMA, Shuzo Aboriginal Population Dynamics: An Overview
.....37
- FURUYA, Yoshiaki *Cura* and *Tambor*: Shamanizing Processes of
Possession Cults in Northern Brazil69
- AKIMICHI, Tomoya Navigational Knowledge of Sea Life (*Pwukof*) in
Satawal, Central Caroline Islands, Micronesia..... 127

彙報

(昭和63年1月～
昭和63年3月)

人事異動

(教育職) (退職)

3月31日 第三研究部教授 伊藤 幹治
第五研究部教授 中村俊亀智

シンポジウム

◎日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムIX

『日本文化源流論の課題と展望』

日時 昭和63年1月19日(火)～1月22日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 民博では、1979年以来、特別研究「日本民族文化の源流の比較研究」をすすめてきた。

今回はこの特別研究の最終年次にあたり、これまで開催されたシンポジウムの成果をふまえ、日本および周辺諸民族文化をめぐる諸問題を国外からの研究者をまじえ、あらためて討議し、多角的な視野から日本文化の源流の比較研究にあらたな展望をひらこうとするものである。

シンポジウム実行委員会

佐々木高明 国立民族学博物館第二研
(委員長) 究部教授
大林 太良 東京大学教授
松山 利夫 国立民族学博物館第一研究
部助教授
櫻井 哲男 国立民族学博物館第五研究
部助手
久保 正敏 国立民族学博物館第五研究
部助手
木田 良次 国立民族学博物館管理部庶
務課共同利用係長
岡本 薫 「源流」事務局

参加者

報告者

池田 次郎 岡山理科大学
石毛 直道 国立民族学博物館
大林 太良 東京大学
金 宅圭 嶺南大学校文科大学
崎山 理 国立民族学博物館
佐々木高明 国立民族学博物館
田村 克己 金沢大学
吉田 敦彦 学習院大学

討論者

飯倉 照平 東京都立大学
石川 榮吉 東京都立大学
伊藤 清司 慶応義塾大学
荻原 真子 東京国際大学
加藤 九作 相愛大学
加藤 晋平 千葉大学
君島 久子 国立民族学博物館
J. クライナー ボン大学日本文化研究
所
小林 達雄 国学院大学
小山 修三 国立民族学博物館
佐原 真 奈良国立文化財研究所
清水 昭俊 広島大学
杉本 尚次 国立民族学博物館
竹村 卓二 国立民族学博物館
谷川 健一 日本地名研究所
長野 泰彦 国立民族学博物館
藤井 知昭 国立民族学博物館
松山 利夫 国立民族学博物館
S. モクレール コレージュ・ド・フラ
ンス日本学高等研究所
国立学術研究所

日程

1月19日(火)

13:30 (座長 松山 利夫)
館長挨拶 梅棹 忠夫
問題提起 佐々木高明
14:40 (座長 佐々木高明)
小進化説と渡來說一形態変化の要
因を探る一 池田 次郎

1月20日(水)

10:00 (座長 杉本 尚次)
日本のなかの異族一蝦夷・隼人・
土蜘蛛一 大林 太良
13:00 (座長 小山 修三)
東アジアの基層文化と日本
佐々木高明
15:20 (座長 藤井 知昭)
韓・日両文化の基層に於ける関わ
りに就いて一東海文化をめぐる若
干の問題一 金 宅圭

1月21日(木)

10:00 (座長 加藤 晋平)
北アジアとの関連一民族学の立場
から一 大林 太良
13:00 (座長 竹村 卓二)
東南アジア・西南中国をめぐる諸
問題 田村 克己
15:20 (座長 松山 利夫)
食の文化 石毛 直道

1月22日(金)

- 10:00 (座長 大林 太良)
神話 吉田 敦彦
- 13:00 (座長 長野 泰彦)
日本語の混合的特徴 一とくにオーストロネシア語族的要素について 崎山 理
- 15:20 (座長 佐々木高明, 大林 太良)
総括討論

シンポジウム

◎近代世界における日本文明—宗教の比較文明学—

日時 昭和63年3月18日(金)~25日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 「近代国家における日本文明」を統一テーマとしてかかげる文明学部門の国際シンポジウムは今回で第6回目を迎える。今回のテーマは「宗教の比較文明学」である。その主眼は近代日本における宗教の文明論的地位を解明することであるが、そのうえでとくに次の二つのことに重点をおきたい。まず第1に日本の近代文明の発展期における宗教の役割を問うこと、第2にそれを他の文明の近代化における宗教の役割と比較することである。

今回のシンポジウムにおいては、日本宗教を中心にすえ、近年精力的に蓄積されている実証的なデータにもとづいて、「宗教の比較文明学」の領域に新しいユニークな視点の導入をはかるうとするものである。

組織委員会

- 梅棹 忠夫 国立民族学博物館長
(委員長)
- 竹村 卓二 国立民族学博物館第一研究部長
- 佐々木高明 国立民族学博物館第二研究部長
- 伊藤 幹治 国立民族学博物館 第三研究部長
- 藤井 知昭 国立民族学博物館第四研究部長
- 杉本 尚次 国立民族学博物館第五研究部長
- 和田 浩司 国立民族学博物館管理部長
- ヨーゼフ・クライナー
(専門委員) ボン大学日本文化研究所長
- ハルミ・ベフ
(専門委員) スタンフォード大学教授

実行委員会

- 中牧 弘允 国立民族学博物館第一研究部助教授
(委員長)
- 栗田 靖之 国立民族学博物館第二研究部助教授
- 小川 了 国立民族学博物館第三研究部助教授
- 小山 修三 国立民族学博物館第四研究部助教授
- 瀬川 昌久 国立民族学博物館第一研究部助手
- 田中 雅一 国立民族学博物館第二研究部助手
- 糸金則由紀 国立民族学博物館管理部庶務課長
- 湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務理事
- 宇治日出二郎 財団法人千里文化財団事業部長

参加者

- マイケル・アッシュケナー
ベングリオン大学講師
- ハルミ・ベフ スタンフォード大学教授
- ウィンストン・デイヴィス
サウスウエスタン大学教授
- ヘレン・ハーテカ
プリンストン大学助教授
- ヨーゼフ・クライナー
ボン大学日本文化研究所長
- ヤン・ファン・ブレイメン
ライデン大学助教授
- スリチャイ・ワンゲオ
チェラロンコーン大学助教授
- 伊藤 亜人 東京大学助教授
- 井上 順孝 国学院大学助教授
- 梅棹 忠夫 国立民族学博物館長
- 佐藤 公彦 東京外国語大学専任講師
- 中牧 弘允 国立民族学博物館助教授
- 山折 哲雄 国立歴史民俗博物館教授

日程

- 3月18日(金) (千里阪急ホテル)
- 17:00 登録
- 3月19日(土) (国立民族学博物館)
- 10:00 開会式(司会 中牧 弘允)
- 10:05 参加者紹介(司会 中牧 弘允)
- 10:30 基調講演:梅棹 忠夫
(代読:小川 了)
- セッション1(座長 ハルミ・ベフ)
- 13:00 ウィンストン・デイヴィス「日本と英国における宗教と発展」
- 14:00 討論

彙 報

- セッション2(座長 ヨーゼフ・クライナー)
 15:30 井上 順孝「グローバル化と近代日本宗教一教派神道家のキリスト教対策を中心に」
 16:30 討 論
 3月20日(日)(国立民族学博物館)
 セッション3(座長 ヨーゼフ・クライナー)
 10:00 マイケル・アシュケナージ「神道とユダヤ教における儀式専門家一儀式段階制度の相違点」
 11:00 討 論
 セッション4(座長 伊藤 巫人)
 13:00 ヘレン・ハーデカ「Gender and the Millenium in Omoto Kyodan, A Modern Japanese Religion」
 14:00 討 論
 セッション5(座長 ハルミ・ベフ)
 15:30 山折 哲雄「日本人の宗教的アイデンティティ」
 16:30 討 論
 3月21日(月)(国立民族学博物館)
 セッション6(座長:佐藤 公彦)
 10:00 ヤン・ファン・プレーメン「Neofucianism in Japan: heritage and vista」
 11:00 討 論
 セッション7(座長 ヨーゼフ・クライナー)
 13:00 伊藤 巫人「朝鮮における宗教と社会統合」
 14:00 討 論
 3月22日(火)(比叡山見学)
 3月23日(水)(国立民族学博物館)
 セッション8(座長 山折 哲雄)
 13:00 佐藤 公彦「中国の宗教と近代化」
 セッション9(座長 井上 順孝)
 15:30 スリチャイ・ワンゲオ「Religion and Civilizing Process in Thailand and Japan: A Comparative Sociology of Human Motivation」
 16:30 討 論
 3月24日(木)(国立民族学博物館)
 セッション10(座長 ハルミ・ベフ)
 10:00 中牧 弘允「近代日本の宗教文明一投影装置としての高野山を中心に」
 11:00 討 論
 セッション11(座長 中牧 弘允)
 14:00 総合討 論
 17:00 閉会式
 3月25日(金)(千里阪急ホテル)
 午前中 ワークショップ
 解散

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	先 行
藤井 知昭	教 授 (第四研究部)	63. 1. 9	63. 1. 15	中華人民共和国
佐々木高明	教 授 (第二研究部)	63. 1. 31	63. 2. 7	アラブ首長国連邦
ケネス・ラドル	助教授 (第五研究部)	63. 2. 1	63. 3. 10	マラウイ・タイ
守屋 毅	助教授 (第一研究部)	63. 2. 15	63. 3. 1	アメリカ合衆国
藤井 龍彦	助教授 (第四研究部)	63. 2. 23	63. 3. 9	ペルー
杉島 敬志	助 手 (第二研究部)	63. 2. 26	63. 3. 8	インドネシア
秋道 智彌	助教授 (第一研究部)	63. 2. 27	63. 3. 11	連合王国, フランス, モナコ, ドイツ連邦共和国
藤井 知昭	教 授 (第四研究部)	63. 3. 9	63. 3. 24	タイ・香港・キリバス・アメリカ合衆国

来館者抄

1月11日	服部 英二(ユネスコ本部・首席企画官)	Jalani Sukaimi (マレーシア国民大学副学長)
1月13日	マレーシア国立大学長会議一行 Dato' Nayan Bin Ariffin (マレーシア農科大学長) Tan Sri Ainuddin Bin Abdul Wahid(マレーシア工科大学長), Dato' Ahmad Nawawi Hj Ayob (マラヤ大学教授, コーディネーター)	K. J. Ratnam (マレーシア理科大学副学長) Rahmah Abdullah (マラヤ大学事務官, コーディネーター秘書) 1月14日 折原 繁 (国立歴史民俗博物館整理係長) 1月21日 Abdiel Jose Admes PALMA (パナマ, パナマ大学総長)

- 日根之 和 (新潟県立自然科学館理工課長)
- 大橋 晃 (新潟県立自然科学館展示専門員)
- 藤原 昌晴 (新潟県立自然科学館展示専門員)
- 2月2日 ドイツ国立情報処理研究所 (GMD) 視察団一行
 Hans Juergen HOFER (連邦防衛省総務部長)
 Juergen Faehling (シュレーズビーク・ホルシュタイン州立計算機センター理事長)
 Finke (コンスタンツ大学情報学科)
 Karlheinz Fromm (バイエルン州経済省専門情報課長)
 Dirk Henze (連邦内務省行政情報技術課長)
 Hans Klaus (GMD Washington 所長)
 Mundhenke (連邦専門単科大学)
 Leo Nefiodow (ドイツ国立情報処理研究所)
 Klaus Otten (コンサルタント)
 Otto Simmler (オーストリア総務府専門情報データ調整)
 Karl Schmidt-Reindl (ドイツ国立情報処理研究所)
 Klaus Solveen (連邦経済省経済関係専門情報課長)
 Helmut Volkmann (Siemens, Muenchen データ技術専門)
 Heintz-Peter Renkel (GMD 東京事務所所長代理)
- 2月5日 中国貴州省民俗学民族学研究者訪日団一行
 団長 安 毅 夫 (貴州民族学院院長)
 顧問 田 兵 (貴州省文連副主席)
 団員 張 民 (貴州省民族研究所副研究員)
 龍 伯 亜 (貴州省民族研究所副研究員)
 蘇 曉 星 (『南風』雑誌副主編)
 潘 定 智 (貴州民族学院副教授)
- 2月8日 Fatima MERNISSI (モロッコ, モハメッド五世大学附属科学調査研究所)
- 2月9日 信 立 祥 (中国, 歴史博物館館員)
 王 巍 (中国, 社会科学院考古研究所助理研究員)
- 2月12日 陸 一 心 (中国, 上海社会科学院外事処)
 長谷川正徳 (日本学術振興会事業部専門調査役)
- 2月16日 マレーシア政府職員
 Zainon Nor Bte Ahmad
 Bakaruddin Bin Othman
 Pola Singh Tara Singh
 中国, 新疆ウイグル自治区代表団一行
 団長 居 馬 洪 (新疆ウイグル自治区外事弁公室主任)
 秘書長 張 曉 迪 (新疆ウイグル自治区礼賓処副処長)
 団員 王 建 龔 (カンガル地区外事弁公室主任)
 吐 尼 亞 孜 (アクス地区旅遊接待部幹部)
 富 文 治 (トルハン地区旅遊局副局長)
 卡 克 拜 (アルタイ地区外公事弁室副主任)
 陳 琪 (国際旅行社ウルムチ分社幹部)
- 2月21日 トイタ (トンガ, 外務副次官), スワ (西サモア, 首相府経済協力部長)
 ソボア (ツバル, 首相次官補)
 内藤 英雄 (東京工業大学附属図書館専門員)
- 2月26日 Virgilio G. ENRIQUEZ (フィリピン, フィリピン大学人類学科教授)
 David LEVINSON (HRAF 副会長)
- 3月1日 福田 博 (筑波大学図書館部管理課企画係長)
 阿内 達雄 (筑波大学図書館部管理課受入係)
 丸山 輝芳 (筑波大学運用課逐次刊行物係)
- 3月2日 Shyam SARAN (インド大使館公使)
- 3月5日 中国, 社会科学院国際交流担当者代表団一行

- 3月6日 団長 王 剛 (中国社会科学院外事局副局长)
 団員 韓 振 乾 (陝西省社会科学院外事秘書)
 李 立 (広東省社会科学院弁公室外事副主任)
 周 益 政 (上海社会科学院外事処副処長)
 劉 平 齋 (四川省社会科学院外事秘書長)
 王 保 民 (浙江省社会科学院弁公室外事副主任)
 傅 祿 永 (中国社会科学院外事局亜非処幹部)
 Navatchikov Vladimir ALEK SADROVICH (ソビエト連邦, 国立東洋民族学博物館長)
 Lira Stepanovna LEONOVA (ソビエト連邦, モスクワ大学歴史学部副学部長・歴史学教授)
 中国, 江蘇省経済代表団一行
 団長 李 綬 章 (江蘇省人民政府副省長)
 団員 史 漢 明 (江蘇省人民政府副秘書長)
 郁 冠 (江蘇省經濟研究センター副総幹事)
 孫 建 南 (江蘇省郷鎮企業局副局長)
 沈 才 元 (江蘇省人民政府外事弁公室処長)
 徐 龍 (江蘇省人民政府外事弁公室通訳)
 謝 書 林 (江蘇省人民政府對外經濟貿易委員会副主任)
 朱 智 貴 (江蘇省人民政府外事弁公室副科長)
 3月8日 エックハルト・シューベルト (西ドイツ, 考古学研究所ローマ・ゲルマン研究部)
 3月9日 E. K. M. MASINAMBOW (インドネシア, インドネシア国立科学院 (LIPI) 調査開発センター部長, 兼インドネシア大学文学部教授)
 Bambang SUMADIO (インドネシア, インドネシア教育文化省文化総局博物館部長, 兼インドネシア大学文学部教授)
 Noerhadi MAGETSARI (インドネシア, インドネシア大学文学部部長)
 竹中清一郎 (国立国会図書館図書館協力部国内協力課主査)
 3月11日 鈴木 啓 (福島県立博物館学芸課長)
 日下部善己 (福島県立博物館主任学芸員)
 3月14日 宿里 睦子 (東京工業大学附属図書館閲覧課)
 鈴木 啓子 (東京工業大学附属図書館閲覧課)
 渡利美知子 (東京工業大学附属図書館閲覧課)
 3月15日 Pavao RUDAN (ユーゴスラヴィア, ザグレブ大学人類学研究所長)
 3月16日 吉田 哲廣 (熊本大学附属図書館閲覧課補佐)
 3月21日 中国, 社会科学院青年学者訪日団一行
 団長 劉 啓 林 (中国社会科学院副秘書長)
 秘書長 張 国 維 (同院外事局・アジア・アフリカ処処長)
 団員 張 潘 仕 (同院社会学研究所助理研究員)
 張 宛 麗 (同院社会学研究所助理研究員)
 陳 兆 銅 (同院政治学研究所助理研究員)
 故 新 和 (同院哲学研究所助理研究員)
 石 曉 東 (同院政治学研究所助理研究員)
 万 高 潮 (同院マルクス主義毛沢東思想研究所助理研究員)
 信 春 鷹 (同院法学研究所研究所助理研究員)
 張 丹 (同院日本研究実習員 (通訳))
 3月22日 ウィルヘルム・クレレ (西ドイツ, ボン大学教授)
 田中 久徳 (国立国会図書館逐次刊行物部新聞課司書)
 3月24日 長谷川玄徳 (新潟県立自然科学館自然・天文課長)
 萩原 尚子 (東京大学工学部船舶工学科図書室職員)
 3月26日 Y. Ismail MOHAMED (マレーシア, マレーシア国民大学人類社会学科講師)
 3月29日 D. RAPHAEL (アメリカ合衆国, Human Lactation Center)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 13卷1号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

竹 村 卓 二

〔編 集 委 員〕

君 島 久 子

ケネス・ラドル

崎 山 理

須 藤 健 一

田 中 雅 一

田 邊 繁 治

垂 水 稔 稔

中 山 和 芳

長 野 泰 彦

福 井 勝 義

宮 本 勝 勝

山 本 紀 夫

和 田 正 平

昭和63年7月30日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 13卷1号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.13 no.1
1988

- YAMASHITA, Shinji** **Ethnic Culture in the Process of Nation-Building:
The Toraja Cultural Tradition in Contemporary
Indonesia**
- KOYAMA, Shuzo** **Aboriginal Population Dynamics: An Overview**
- FURUYA, Yoshiaki** ***Cura* and *Tambor*: Shamanizing Processes of Pos-
session Cults in Northern Brazil**
- AKIMICHI, Tomoya** **Navigational Knowledge of Sea Life (*Pwukof*) in
Satawal, Central Caroline Islands, Micronesia**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X